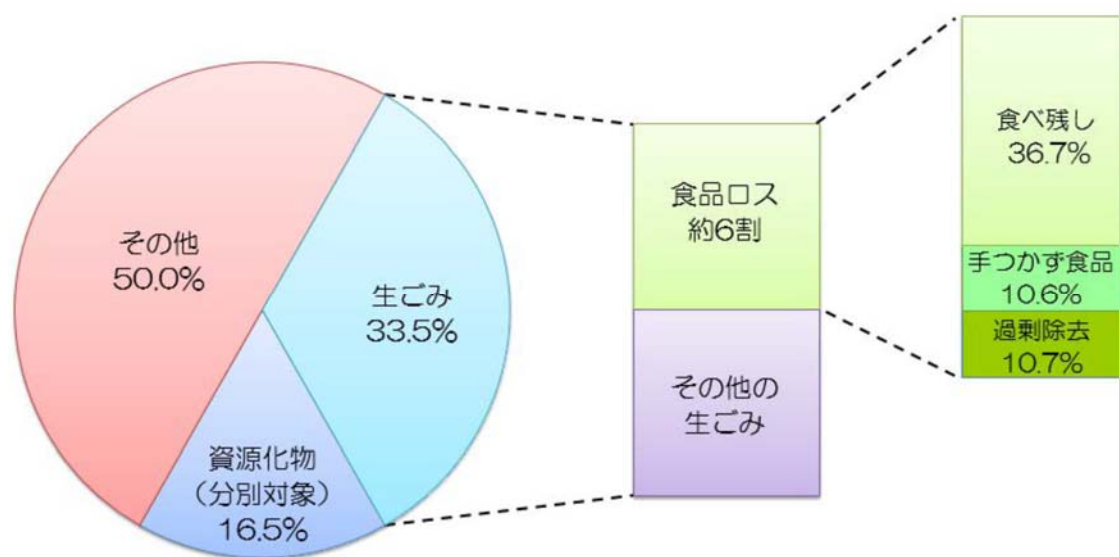


2018年度（平成30年度）の食品ロス発生量

横浜市ではヨコハマ3R 夢プラン推進計画（2018～2021）において、重点的に取り組むものとして、家庭から排出される食品ロスを20%以上削減（2015年度比）することを目標に掲げ、様々な施策を展開しています。

家庭から出される生ごみのうち、約6割が、手つかず食品（手が付けられないまま捨てられる食品）や、食べ残し、過剰除去（野菜の皮などの不可食部を取り除く際に可食部を過剰に取り除いたもの）が原因の「食品ロス」です。

2018年度の組成調査の結果から、家庭からの食品ロスが約105,000トン発生したと推計しています。



燃やすごみにおける食品ロスの割合

食品ロス発生量(2018年度推計)

食品ロスの種類	発生量(トン)
食べ残し	約66,500
手つかず食品	約19,200
過剰除去	約19,400
合計	約105,000

※食品ロス発生量は千トン単位で丸め、食べ残し、手つかず食品、過剰除去の各項目は百トン単位で丸めています。

このため、端数処理により、各項目の合計が食品ロス発生量と合わない場合があります。